



小さな山あいの地区なので大  
体みんな顔と名前を知ってい  
る。受診する患者さんの家族構  
成や親せき関係なども大体わか  
る、という具合で、みんなで声  
掛け、助け合う環境が残ってい  
ます。みんな道端で出会えば知  
らない人でもあいさつをするの  
が習慣になっています。  
私は出張先などでエレベータ  
ーに人が入ってくると、つい習  
慣で、知らない人でもあいさつ  
をしてしまい、びっくりされる  
ことがあります。

**24時間、365日対応**

そんな愛知県新城市の旧作手  
村地区の旧役場(現総合支所)  
近くに新城市作手診療所はあり  
ます。  
赴任して三年。常勤医師二人

# 学校、地域で保健事業に力

で三百六十五日、二十四時間急  
患対応を実施し、昼間の外来も  
にぎやかいです(にぎやか!!  
人がいっぱいいる、混雑してい  
る)。  
赴任当時は聞きなれなかった  
三河弁も、今では患者さんとま  
しゃべれるようになり、お年寄  
りの患者さんには「先生は作手  
の生まれか? (かん!!です  
か)」と聞かれるまでになりま  
した。

**大西 哲朗** 23期・2000年卒



住民の人間ドックのレントゲン写真を検討する筆者(手前)、奥は  
同僚の前田医師。年間500人前後の人間ドックを行っている

## 元新城市作手診療所長

【私の勤務地】 旧作手村は「平成の大合併」で、  
昨年10月1日に新城市、蓬萊町と合併し新城市作手  
となる。作手地区は平均標高550mという高原の地  
区。夏は涼しく、冬は厳しい寒さがやってくる。人  
口約3200人、年間出生数は15人前後。65歳以上人口  
が35%と高齢化の進んだ地区となっている。

山あいの地区なので診療所に  
自分で来られない患者さんもい  
ます。地区を回るバスや、診療  
所のバスも運行して対応してい  
ますが、私自ら往診車を運転し  
て片道四十分くらいかけて往診  
に出かけることもしばしばで  
す。

### 健康への興味を

がやってきました。慣れない環境  
で体調を崩して受診する子も、  
「お家へ帰るかね」と言つとコ  
クンとうなずいて笑顔になると  
いうことも。

私が日常診療以外に力を入れ  
ていることは、学校保健事業や  
地域の保健事業です。病気にな  
らない習慣作り。普段から気を  
つけておくこと。

冬場は路面が凍結してしまう  
ので大変です。仙人が住んでい  
そうなところに家があったりも  
します。救急の患者さんの場合  
は、救急車に同乗し六十分くら  
いかけ最寄りの市民病院まで搬  
送したり、昼間であればドクタ  
ーヘリを要請したりと臨機応変  
に対応しています。

子どもたちが「話、面白かつ  
たよ」とか、診療所の外で出会  
った人から「先生の言つてたこ  
とやつてるよ」などと声を掛け  
てもらつと、忙しい日常診療の  
中でも、また次につなげようと  
急にやる気の出てる今日この  
ころです。

日常の診療では、田植えや稲  
刈りの時期は天気がいいと診療  
所はがらになります。みんな  
な忙しくて「診療所なんかに行  
つちやおれん」といったことの  
ようです。

夏場には愛知県内の市町村か  
ら野外教育実習などで小中学生

(次回予定は熊本県)